

今後の管理運営の方向性



【事業の柱】

- ◇ 4大祭り
・より多くの方に来園してもらう機会として季節毎に実施
- ◇ 里山学習プログラム
・自然観察や自然素材の工作体験など
- ◇ 小学校等の環境教育
・フィールド体験を主に多様なメニューを組合せて実施
- ◇ 里山体験メニュー
・農作業体験、収穫体験や里山の暮らし体験

【ターゲットのイメージ】

- ◇ 一般利用者
・何かで知って初めて
・風景を求めてたまたま
・イベント時に
- ◇ 団体利用者
・小学校の学年やクラス
・ハイキングツアー
・障害者施設
- ◇ リピーター
・プログラム参加で度々
・市民活動団体/調査団体
・体験メニューでよく来る

初心者層

ファン層

【具体的な(新しい)取り組み】

- 4大祭りの見直し⇒やまもも祭りを含めた夏フェス実施
- 通年プログラムや宿泊プログラムの試行
- フィールドミュージアムの取り組み
- 水曜日(休園日)の出前教室(環境教育)
- 幼稚園(児)による田んぼの泥んこ体験試行
- セルフメニューの充実、古民家の活用
- 広域的な広報PR(ひょうごフィールドパビリオン等)
- 案内サインの充実、ランドマークの検討

【施設管理、植物管理】

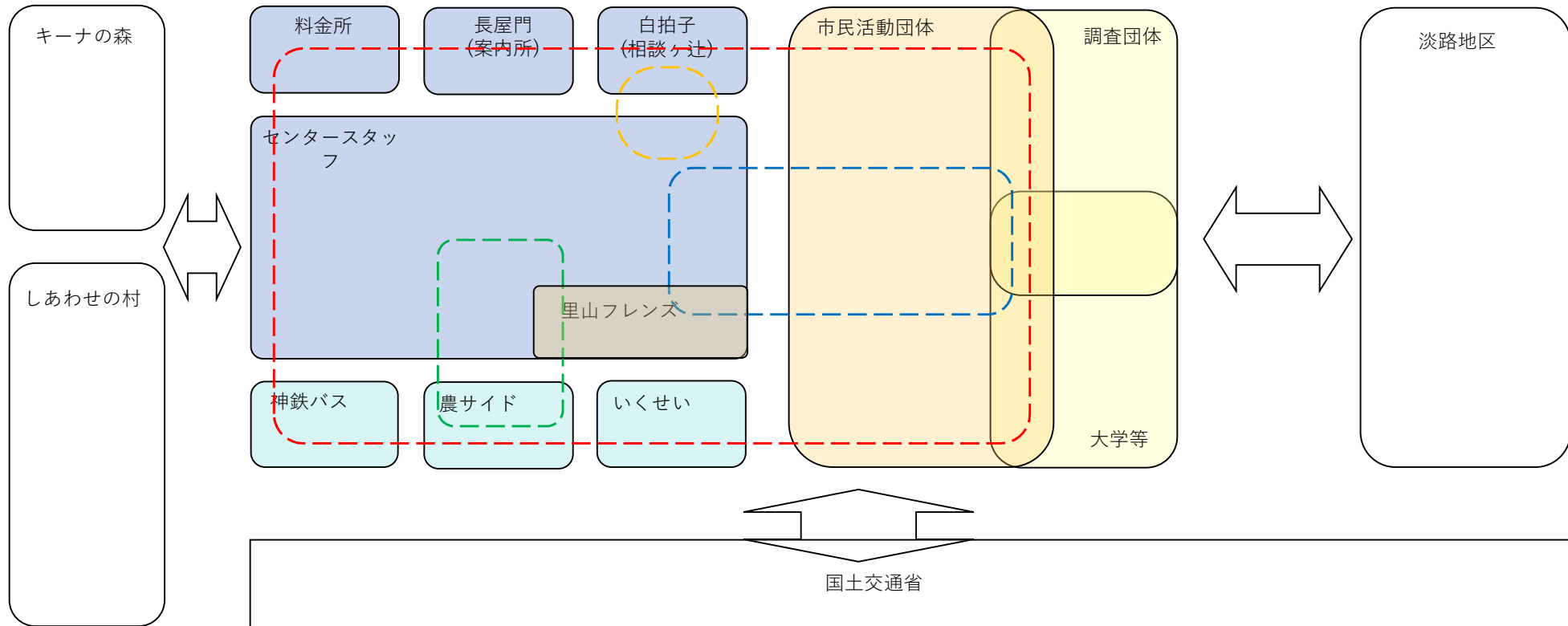
- ・安全性や快適性の確保、緊急時対応
- ・集客性や満足度を意識した施設管理、順応的な植物管理
- ・関係機関と連携した獣害対策、外来種対策

■ 伐採木等の適切な再利用

【広報、「おもてなし」の取り組み】

- ・HP、SNS、チラシなど多様な情報発信
- ・現状の利用者とは異なる層へのアプローチ
- ・自主事業による利用者サービス(あいな売店他)...


【神戸地区の運営体制と主な取り組みへの関わり】




【特記】

- ・ しあわせの村シルバーカレッジにおける卒業生誘致
(⇒里山フレンズ、市民活動団体)
- ・ 開園10周年(令和7年)に向け、市民活動団体と連携した取り組み
- ・ 大学との連携(若手研修者からの意見聴取等)を模索
- ・ フィールドミュージアム推進における調査団体との連携強化

 4大まつり

 里山体験メニュー

 里山学習プログラム

 環境教育



【具体的な(新しい)取り組み】

■ 4大祭りの継続と見直し (案)

内容	イベント等概要	R5~9予定 (R6.2.1~R10.1.31)																備考
		実施時期																
		第1四半期				第2四半期				第3四半期				第4四半期				
R5	R6	R7	R8	R9	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
四季の里山イベントの継続・見直し・実施拡大まつり等	あいな里山春フェスタ																	
	GWの里山を楽しもう																	
	☆田植えまつり																	
	あいな里山夏フェスタ																	
	☆やまもまつり																	
	あいな里山秋フェスタ																	
	☆里山まつり																	
	あいな里山冬フェスタ																	
	初まつり (☆とんど焼き)																	
二十四節気七十二候に基づく体験メニュー・プログラム	農村の生活習を体験できる多様な里山体験メニューや里山学習プログラムの実施																	国と協議の上、実施

・夏季の集客対策として、やまも祭りを含む夏フェスタの期間を7月~8月に移行させ、広報PRしていく。



← 田植え祭り
近隣高校生による早乙女田植えの様子



← やまも祭り
藍那地区の歴史文化資源、やまも収穫体験の様子



← 里山祭り
稲刈り体験の様子



← 初まつり
とんど焼きの様子

■ 広報、「おもてなし」の取り組み

・ 広域的な広報の充実を目指す。

現状	⇒	拡充 (案)
近畿圏公園等 有馬富士/やしろの森 淀川河川/国営飛鳥	⇒	(大阪、京都などの公園) ⇒ (類似施設を持つ国営公園)
古民家つながり 丹波並木道	⇒	(各地の古民家施設)
インバウンド KICC(留学生施設)	⇒	ひょうごフィールドパビリオン

・ 芸術系大学の学生などに呼びかけてアートな作品を設置し、ランドマークとしての誘導案内等に活用できないか検討。



例： 茅を用いたティピ



例： プログラムの案山子

・ ふらっと来た人がより多く楽しめるように、セルフメニューの充実や、古民家の活用を検討する。



古民家における昔遊び(福笑い)の提供⇒



■フィールドミュージアムの取り組み

- ・調査団体等と連携して展示内容を検討し、現地における解説板を設置。里山学習プログラムや一般利用者のセルフメニューに活用。



解説板の設置(例)



セルフメニュー用マップ(例)

- ・藍那地域の方々からこの地域の歴史文化自然に関わるお話を聞き、記録として保存活用していく(アーカイブ)



古老によるトークイベント(地域とヤマモモの関わり)

⇒
藍那地域の
しめ縄づくり
実演



- ・来園者が貴重な生き物に出会う機会を増やし、里山学習プログラムの運営を容易にするといった視点も合せ、施設管理や植物管理を実施。



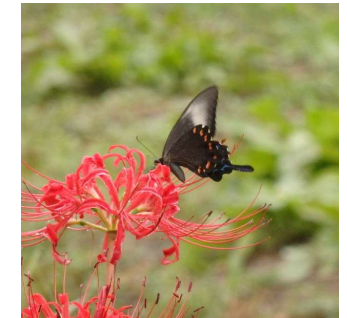
ハンノキ林の定期的剪定
(ミドリシジミ)



エノキを活用した幼虫の生育
(オオムラサキ)



林縁の飼育・観察用ケージ
(オオムラサキ)



ヒガンバナの計画的植栽
(ミヤマカラスアゲハ等の蝶類)



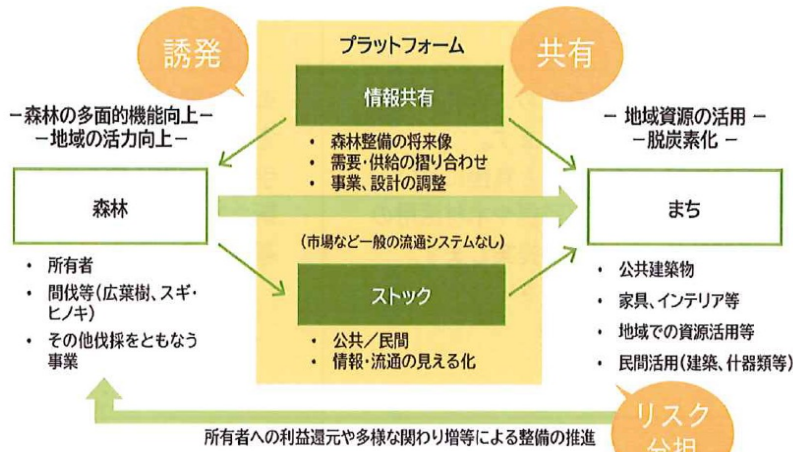
■伐採木等の適切な再利用

- ・隣接するしあわせの村内にヤードが設けられている「こうべ森と木のプラットフォーム」を活用した有効利用。

1st テーマ **森林とまちをつなぐ。森林を地域で活かす。**

まずは、3つの取組からスタート。

- ①神戸市の森林整備・伐採木等に関する情報を共有
- ②木材活用に関するリスクをステークホルダーで分散する仕組みを検討
- ③森林や木材活用に関わる新たな公民の活動を誘発



こうべ森と木のプラットフォームの取り組みイメージ

■幼稚園（児）による田んぼの泥んこ体験試行

- ・利用時期が田植えや稲刈りの時期に集中する小学校以外の利用により、団体利用の平準化を目指す。



泥んこ体験のイメージ

■水曜日(休園日)の出前教室（環境教育）

- ・R6年2月から毎水曜日が休園日となることから、小学校等にスタッフが出向いて環境教育を行う出前教室を実施。



交流館における講義



出前教室(イメージ)